

対照表

素案（案）	たたき台	備考																				
<p>第●節 麻しん対策 現状 ○ 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び同法に基づく「麻しんに関する特定感染症予防指針」に基づき、市町村、関係機関・団体と連携し、麻しん対策を推進している。 ○ 麻しんは、麻しんウイルスによる急性感染症であり、主な症状は、発熱、発疹、カタル症状「はしか」とも呼ばれ、高熱と耳後部から始まり体の下方へと広がる赤い発疹を特徴とする全身性ウイルス感染疾患である。また、稀まれに、感染・治癒してから数年から十数年後に発症する亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と呼ばれる予後不良の脳炎を引き起こす急性脳炎を発症し、精神発達遅滞等の重篤な後遺症が残ったり、又は、死亡することがある。さらに、よりまれではあるが、亜急性硬化性全脳炎という特殊な脳炎を発症することがある。 ○ 日本国内では、2006年に麻しんの定期の予防接種が2回接種（1歳時と小学校入学前）となって以降、2008年（平成20年）に1万人超の患者が出たが、ワクチンの定期接種が2回（1歳時と小学校入学前）に増えたことなどから、麻しんの排除のための対策により予防接種を2回受けたことがある者の割合が大きく上昇したことでその後の患者発生は減り、2015年には35人に、まで激減し、土着性の感染伝播が3年間確認されず、世界保健機関（WHO）から、国内に土着ウイルスがない「排除状態」と認定された。 ○ 感染症発生動向調査における届出状況全道の報告数は、2008年の1,462人をピークに全道の報告数は減少傾向にあり2009年には17人に激減し、2022年は1例直近5カ年では一桁台で報告され推移している。</p> <table border="1" data-bbox="141 1110 945 1179"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2019年</th> <th>2020年</th> <th>2021年</th> <th>2022年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全道報告数</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">（出典）感染症サーベイランスシステム（NESID）</p> <p>課題 ○ 感染力が非常に強い麻しんの対策として最も有効なのは、その発生の予防であり、最も有効な対策は、予防接種により感受性者が麻しんの免疫を獲得することである。このため、国の指針に基づき、定期の予防接種により対象者の95%以上が2回の接種を完了することが重要であることから、定期予防接種の実施主体である市町村とともに</p>	年度	2019年	2020年	2021年	2022年	全道報告数	6	0	0	1	<p>第●節 麻しん対策 現状 ○ 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び同法に基づく「麻しんに関する特定感染症予防指針」に基づき、市町村、関係機関・団体と連携し、麻しん対策を推進している。 ○ 麻しんは麻しんウイルスによる急性感染症であり、主な症状は、発熱、発疹、カタル症状である。また、稀に、感染・治癒してから数年から十数年後に発症する亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と呼ばれる予後不良の脳炎を引き起こすことがある ○ 日本では2008年（平成20年）に1万人超の患者が出たが、ワクチンの定期接種が2回（1歳時と小学校入学前）に増えたことなどから、2015年には35人に、激減し、世界保健機関（WHO）から、国内に土着ウイルスがない「排除状態」と認定された。 ○ 感染症発生動向調査における届出状況は、2008年をピークに全道の報告数は減少傾向にあり、2022年度は1例が報告されている。</p> <table border="1" data-bbox="1023 1110 1776 1179"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2019年</th> <th>2020年</th> <th>2021年</th> <th>2022年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>報告数</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>課題 ○ 感染力が非常に強い麻しんの対策として最も有効なのは、その発生の予防であり、最も有効な対策は、予防接種により感受性者が麻しんへの免疫を獲得することである。このため、定期の予防接種により対象者の95%以上が2回の接種を完了することが重要であり、未接種の者及び1回しか接種していない者に対して、幅広く麻しんの性質等を</p>	年度	2019年	2020年	2021年	2022年	報告数	6	0	0	1	<p>・素案（案）の全体の記載と平仄を合わせた ・事務局による字句の修正（現状を追記） ・事務局による字句の修正（現状を追記） ・事務局による字句の修正（現状を追記） ・事務局による字句の修正</p>
年度	2019年	2020年	2021年	2022年																		
全道報告数	6	0	0	1																		
年度	2019年	2020年	2021年	2022年																		
報告数	6	0	0	1																		

対照表

素案（案）	たたき台	備 考
<p>に、未接種の者及び1回しか接種していない者に対して、麻しんの予防接種を受けるよう働きかけることが重要である。なお、令和3年度の全道の接種率は、第1期が92.3%、第2期が90.0%であり、1回目接種・2回目接種とも接種率が95%を割り込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道は、予防接種の重要性や副反応等について、道民に対し情報提供する必要がある。 ○ 医療機関及び児童福祉施設等の職員等のうち、特に定期的予防接種の対象となる前であり抗体を保有しない0歳児、免疫不全者及び妊婦等と接する機会が多い者で、罹患歴又は予防接種歴が明らかでない者に対しては、予防接種を受けることを推奨する必要がある。 ○ 妊娠中に麻しんに感染すると流産や早産を起こすリスクがあるとされており、ワクチン未接種・未罹患の場合には、妊娠前にワクチン接種を受けることなどの注意喚起をする必要がある。 ○ 海外への渡航者は、海外で麻しんに罹患した者と接する機会があることから、麻しんウイルスに感染して帰国すると我が国に麻しんウイルスが流入する可能性がある。 <p>施策の方向と主な施策</p> <p>○ 麻しんのような感染力が極めて強く、重症化のおそれのある感染症については、早期探知及び早期治療が特に重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 麻しんの患者数が減少し、自然感染による免疫増強効果が得づらくなってきたこと、麻しんが小児特有の疾患でなくなったことに鑑み、小児科医のみではなく、全ての医師が麻しんの患者を診断できるよう、普及啓発を行う。 ○ 道は、定期予防接種の対象者の95%以上が2回の接種を完了できるよう、市町村と連携しながら勧奨を行う。 ○ 海外に渡航する者のうち、麻しんの罹患歴が不明で予防接種を2回受けていない又は接種歴が不明である者について、予防接種を受けることを、道のホームページ等を活用して啓発する。 ○ 予防接種法に基づかない予防接種について、医療機関及び児童福祉施設等の職員など抗体を保有しない0歳児や妊婦等に機会が多い者に対して予防接種を受けるよう推奨するほか、妊娠中に麻しんに感染すると一定のリスクがあるため、ワクチン未接種・未罹患の場合に、妊娠前にワクチン接種を受けることを推奨する。 ○ 道は、北海道麻しん及び風しん対策専門会議において、関係機関の協力を得ながら、定期的に麻しんの発生動向、各市町村における定期 	<p>伝え、麻しんの予防接種を受けるよう働きかけることが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度の全道の1回目接種・2回目接種とも接種率が95%を割り込んでいる。 <p>施策の方向と主な施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 麻しんのような感染力が極めて強く、重症化のおそれのある感染症については、早期探知及び早期治療が特に重要である。 ○ 麻しんの患者数が減少し、自然感染による免疫増強効果が得づらくなってきたこと、麻しんが小児特有の疾患でなくなったことに鑑み、小児科医のみではなく、全ての医師が麻しんの患者を診断できるよう、積極的に普及啓発を行うことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局による字句の修正（現状を追記） ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正 ・事務局による字句の修正 ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正

対照表

素案（案）	たたき台	備 考
<p>の予防接種の接種率及び副反応の発生事例等を把握し、地域における施策の進捗状況を評価するとともに、それらを踏まえ、また、関係機関等との連携の下、道民に対し、麻しんに関する正しい知識に加え、その予防に関する適切な情報提供、に麻しんの定期の予防接種の円滑な実施をして取り組んでいく。</p>	<p>○ また、麻しんとその予防に関する適切な情報提供、麻しんの定期の予防接種の円滑な実施をしていく。</p>	